

審判講習会簡易マニュアル

〈 塁審編 〉

東京都町田市少年野球連盟審判部

文書バージョン：1.1

文書作成日：2021.02.01

【一塁・塁審】（4人制）

1. プレイ前のポジション

- a) 通常立つ位置より45度グラウンド内側、ラインから4mの位置に立ち（手は後方で組み、ベルトの高さ）、捕手が二塁に送球し、二塁手又は遊撃手のグラブにボールが触れたタイミングで速やかに定位置に入る。（**ボールが触れなかった場合も同じタイミング**）

2. プレイ中のポジション（定位置）

- a) ランナーなしの時は、一塁ベース後方6～7mの位置に自然体で立つ。（一塁手より前に位置しない事。ラインより拳一つ分ほど「約10cm」空いた場所に右足を置いて立つ。）
- b) 一塁ランナーがいる時は、一塁ベース後方2～3mに位置する。（ルックの姿勢をとる。一塁以外にランナーがいる場合もルックの姿勢をとる。）**プレートを外す／外さない牽制球、左投手のボークに注意する。**

3. 外野エリアの守備範囲

- a) 二塁塁審が外に出ている時は、ライトの野手より右側の判定を行う。
- b) 二塁塁審が中に入っている場合は、ホーム・二塁ベースの延長線より、基本的に右側の判定を行う。

4. 内野ゴロの場合

- a) サードゴロ・ショートゴロの時は、フェアゾーンに入って捕球した野手と一塁ベースを結んだ線の直角の位置に移動し、野手の捕球・送球を確認後、一塁ベースに視線を写しセーフかアウトかを判定する。（**捕球のタイミングと打者走者の触塁を目と耳で確認する**）
- b) セカンドゴロも基本的には同じだが、ラインよりのゴロ（プレッシャーボール）の場合は、動かずバッターランナーの妨害にならない位置をとる。
 - i. 目は一塁全体を見ながらもベースに重点を置き、一塁手の足及び、バッターランナーの足をしっかり見て、判定する。（一塁手の足が捕球時に離れていた場合は、セーフのコールの後に両手を足が離れた方向に振り、“オフ・ザ・バッグ”とコールする。）
 - ii. アウトは、一塁手が捕球後、グラブを見て落球していないかを確認後、また、打者走者が一塁ベースを通過後に余裕をもってコールする。
 - iii. セーフは、打者走者が一塁ベースを踏んだ後、速やかにコールする。

5. ライトへの浅い打球の場合

- a) 一塁への送球を意識して外側に出て状況を判断する。ラインよりの打球の場合は、フェアの判定後、速やかに一塁ベースの外側に位置する。（打者走者の邪魔にならない位置）

6. フェア、ファールボール、ハーフスイングの判定

- a) 一塁ベースの起点より後方の打球（ライン際の打球含む）に対して、フェア／ファールボールの判定を行う。（前方は球審が判定する。）
- b) 右バッターのハーフスイングのリクエストを受けることがある。

7. インフィールドフライのシグナル

- a) 無死又は一死で、走者一・二塁、または満塁の時は、投手が投球する前にインフィールドフライのサインを確認する。（右手を左胸あてる）

【二塁・塁審】（4人制）

1. プレイ前のポジション

- a) 二塁ベースの延長、センターとの中間程度の位置に立ち（手は後方で組み、ベルトの高さ）、捕手が二塁に送球し、二塁手又は遊撃手のグラブにボールが触れたタイミングで速やかに定位置に入る。（ボールが触れなかった場合も同じタイミング）

2. プレイ中のポジション（定位置）

- a) ランナーなしの時は、一般的には一塁ベースと二塁ベースの延長線上の二塁ベースより6～7mの位置に立つ。
- b) 走者が一塁または二塁または両方に位置している場合は、ダイヤモンド内のセカンドよりに位置する。（三塁側のコーチズボックスのホームよりの線と、一塁と二塁を結ぶ線より1.5m内側の位置に立ち、身体は本塁側に正対し、ルックの姿勢をとる。（ハンズ・オン・ニーズ）
- c) 一塁走者が盗塁した場合は、キャッチャーの送球の方向を確認後、二塁ベースに右回りで回転しタグプレイに備える。（**右足を引いて回転すると送球ラインをキープ出来る**）
- d) 二塁走者がいる場合は、二塁ベース上の牽制球に備える。

3. 外野エリアの守備範囲

- a) ランナーなしの時は、レフトからライト間の判定を行う。
- b) ダイヤモンド内に入っている時は、外野への飛球は追わない。（判定を行わない）但し、地上すれすれのボールなどのトラブルボールについては、近づいて止まって判定を行う。

4. インフィールドフライのシグナル

- a) 無死又は一死で、走者一・二塁、または満塁の時は、投手が投球する前にインフィールドフライのサインを確認する。（右手を左胸あてる）

【トラブルボール】

- * 右翼線又は左翼線寄りの打球。
- * 外野手が前進して地面すれすれの打球。
- * 外野手が背走するフェンス際の打球。
- * 野手が集まる打球。

【三塁・塁審】（4人制）

1. プレイ前のポジション

- a) 通常立つ位置より45度グラウンド内側、ラインから4mの位置に立ち（手は後方で組み、ベルトの高さ）、捕手が二塁に送球し、二塁手又は遊撃手のグラブにボールが触れたタイミングで速やかに定位置に入る。（**ボールが触れなかった場合も同じタイミング**）

2. プレイ中のポジション（定位置）

- a) ランナーなしの時は、三塁ベースより後方6~7mの位置に自然体で立つ。
（ラインより拳一つ分ほど「約10cm」空いた場所に左足を置いて立つ）
- b) ランナー二塁の時は、三塁ベースより後方4mにルックの姿勢で、二塁ランナーの盗塁に備える。
- c) ランナー三塁の時は、三塁ベースより後方2mの位置にルックの姿勢で構える。（ラインを跨いで立ちホームが見えるようにする。）**プレートを外す／外さない牽制球、右投手のボールに注意する。**
- d) 無死または一死、ランナー三塁の時に、ライト・センターに飛球が飛んだ場合は、タグアップに備える。（ラインから外に出て、三塁ランナーとボールの両方が見える位置に移動する。）逆「くの字」の位置

3. 外野エリアの守備範囲

- a) 二塁塁審が外に出ている時は、レフトの野手より左側の判定を行う。
- b) 二塁塁審が中に入っている場合は、ホーム・二塁ベースの延長線より、左側の判定を基本的に行う。

4. フェア、ファールボール、ハーフスイングの判定

- a) 三塁ベースの起点より後方の打球（ライン際の打球含む）に対して、フェア／ファールボールの判定を行う。（前方は球審が判定する。）
- b) 左バッターのハーフスイングのリクエストを受けることがある。

5. インフィールドフライのシグナル

- a) 無死又は一死で、走者一・二塁、または満塁の時は、投手が投球する前にインフィールドフライのサインを確認する。（右手を左胸あてる）

【攻守交替時の塁審の役割】

* 追い出しについて

- ・一塁側が守備に行く時は、一塁塁審が一塁コーチボックス付近で追い出しを行う。
- ・三塁側が守備に行く時は、三塁塁審が三塁コーチボックス付近で追い出しを行う。

* ピッチャプレート清掃について（お尻は、センター方向に向ける事）

- ・追い出しを、している反対側の塁審が行う。
- ・ただし、二塁塁審が内に入っていて3アウトになった時は二塁塁審が行う。